

令和7年度事業報告

及び附属明細書



公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構

目 次

I	基本方針	1
II	事業活動の内容	2
1	企画調査研究事業	2
2	建設推進活動事業	3
3	情報発信事業	3
4	交流・立地促進事業	4
5	事業化推進事業	6
6	地域産業振興事業	8
7	新産業創出会員事業	8
	(運営体制の充実を図るための取組)	9
	(事業報告書附属明細書)	9

I 基本方針

(1) けいはんな学研都市の概況

関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）は、昭和62年に施行された関西文化学術研究都市建設促進法に基づく国家プロジェクトとして、豊かな文化・学術・研究の蓄積を活かした文化・学術・研究の拠点づくりを目指し、建設が進められている。

また、本都市では、情報通信や環境・エネルギー、光量子科学などの分野において、様々な先進的プロジェクトが展開されてきたことに加え、企業進出や住宅整備も進んできたことから、現在、150を超える立地施設と25万人を超える都市内人口を有する、文化、学術研究、産業、生活が調和した多様な機能を持つ都市として発展を続けている。

さらに、本都市は、令和8年度～令和12年度の第7期「科学技術・イノベーション基本計画」において記載されているとおり、企業、大学、公的研究機関などの多様な主体による連携・共創の舞台となるけいはんな地区の特色を活かしたオープンイノベーション拠点を形成し、大阪・関西万博のレガシーを継承・発展させる役割を期待されている。

このような中、本都市がさらなる発展を続けていくためには、国際競争力を持つ大学・研究機関等の充実を図り、世界トップレベルの研究開発型オープンイノベーション拠点を形成すべく、高質な交通・教育・医療など都市環境の整備をはじめとした様々な取組を進めていく必要がある。

このため、本都市においては都市の建設や運営に係る取組の方向を定めた「新たな都市創造プラン」（平成28年策定）に基づき、「文化・学術研究の振興」「イノベーション推進」「都市形成・運営」等に向け各種事業を展開してきた。

そして、令和7年度に同プランの目標年次を迎えたことから、学識経験者や国・地元自治体をはじめとした関係機関とともに、これまでの成果・到達点と課題を踏まえ、都市運営の体制及び学研都市の概ね次の10年の方向性を示す「けいはんな学研都市第5期ステージプラン～ポスト万博シティけいはんな～（以下「第5期ステージプラン」という。）」を令和8年3月に策定した。

(2) 令和7年度の主な取組

令和7年度は、「大阪・関西万博」と連携した「けいはんな万博2025」を開催した。当機構は運営協議会事務局として、参画機関をはじめ本都市の研究機関や企業、行政等と密接に協力・連携し、万博の効果の本都市への波及および都市内外の交流・回遊の促進、ポスト万博を見据えた活動として、「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」の4つのテーマを中心に様々な取組を積極的に展開し、計74イベント、来場者約20万人と盛況を博した。

また、最終年度を迎えた「新たな都市創造プラン」については、これまでの到達点および課題を抽出・検討し、「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」において、今後のおおむね10年間の方向性を示す「第5期ステージプラン」の策定につながった。

さらに、国の「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」に選定された「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」を構成する「けいはんなスタートアップエコシステム」との連携を通じたスタートアップ支援、自動運転やロボットの遠隔操作等の実証環境の整備を通じた実証実験支援、その他産学公住の連携によるイノベーション創出に向けた様々な取組を進め、世界トップレベルの研究開発型オープンイノベーション拠点の形成を目指し、「けいはんなイノベーションハブ」の機能拡充にも取り組んだ。

このほか、先端シーズ等の積極的な発信を通じ、本都市と関西の大学・研究機関との共創関係の構築および新技術や新産業の創出につなげる取組や、食に関する国内外の様々な課題解決に向けたフードイノベーション推進の取組なども引き続き実施した。

Ⅱ 事業活動の内容

1 企画調査研究事業

本都市の文化・学術研究の振興、イノベーションの推進、都市形成に係る各種取組について、調査・研究や企画・立案を行い、都市の進捗状況等を共有し、関係機関等との合意形成を図り、様々な取組を支援した。

(1) 新たな都市創造プランの推進・次期ステージプランの策定 【重点取組】 【都市建設・産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

新たな都市創造会議の運営等を通じ、最終年度となる「新たな都市創造プラン」の達成状況の確認や2026年からの次期ステージプランの策定、都市建設に関わる関係者等への支援等を行う取組

◆ 今年度の取組

- ・ 「新たな都市創造プラン」の実現に向けた取組み評価・進捗確認・情報の共有化を図るため、「新たな都市創造会議」の総会を開催するとともに、今年度総会が最後の総会となったことから、「新たな都市創造プラン」の総括及び次期ステージプランに向けての報告をもとに意見交換を実施
- ・ 学研都市全体を俯瞰的に評価する指標を取りまとめたインジケータマップを作成
- ・ 次期ステージプランの策定に向け、「けいはんな学研都市第5期ステージプラン検討委員会」を3度開催し、今後のおおむね10年間の方向性を示す「第5期ステージプラン～ポスト万博シティけいはんな～」を策定
- ・ 未整備クラスターの建設促進に向け、都市計画審議会や地域公共交通協議会等の関係市町や事業者等の開催する会議体に参加し、助言や問題解決に向けた調整等の支援を実施

(2) 「けいはんな万博2025」の開催 【重点取組】 【産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

本都市の持続的な成長・発展を目指し、世界トップレベルの研究開発型オープンイノベーション拠点の形成を推進するため、「大阪・関西万博」と連携した「けいはんな万博2025」の開催により、これまでの取組と新たな取組の融合を図ることで、本都市を国内外に発信するとともに、産官学の連携を強化する環境整備に資する取組

◆ 今年度の取組

- ・ 運営協議会事務局として、参画機関等との連携のもと、万博の効果の本都市への波及、都市内外の交流・回遊の促進（拡張万博）、万博の成果継承（ポスト万博）を見据えた活動を展開（74イベント、来場者約20万人）
- ・ 4月13日から10月13日までの会期中、5月に「ロボット・アバター・ICT」、6月に「ウェルビーイング」、7月に「スタートアップ」、9・10月に「サイエンス&アート」をテーマとした取組を実施
- ・ 4つのテーマに加えて、会期中に国際会議、オープンラボ・テックツアー、夢洲会場のヘルスケアパビリオンや関西パビリオンへの出展なども実施

2 建設推進活動事業

本都市の建設理念を早期に実現するため、国等への要望や政策提言、さらには都市のPR等を通じ、オープンイノベーション拠点形成のための基盤強化やインフラ整備の実現を目指す取組を実施した。

(1) 本都市のさらなる発展への支援獲得

【都市建設・産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

関西文化学術研究都市建設推進協議会として、国等に対する要望活動等を通じ、都市基盤の整備やイノベーションの推進に向けた課題解決に必要な予算や支援等を獲得する取組

◆ 今年度の取組

- ・ 本都市内外の動向や立地機関の意向を把握の上、経済団体、関係自治体と協力し、7月及び11月に、以下の項目に対する国の支援等を要望するとともに、広報パンフレット等による本都市の様々な取組紹介等のPR活動を実施
 - ① ポスト万博シティの推進
 - ② 研究開発型オープンイノベーション拠点形成のための機能強化
 - ③ 交通ネットワーク等のインフラ整備促進
- ・ この要望活動の結果、国の第7期「科学技術・イノベーション基本計画」において、けいはんな学研都市が大阪・関西万博のレガシーを継承・発展させる役割を担うこととして明記された。

3 情報発信事業

本都市の知名度向上と研究成果等の社会還元を進めるため、多様なツールを活用するとともに、関係機関との連携を強化し、戦略的な都市全体の情報発信を行った。

(1) 多様なツールを活用した情報発信

【重点取組】

【都市建設・産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

本都市の有する最先端の技術や研究成果等の社会還元と本都市のブランド価値を高めるため、多様なツールを活用し、都市の魅力を幅広く、わかりやすくタイムリーに情報発信する取組

◆ 今年度の取組

- ・ 「けいはんな万博 2025」開催を契機とした本都市の情報発信や都市外での研究成果展示会や各種セミナー・シンポジウム等の開催・出展等にあわせた、広報ツールの活用による情報発信（19回）
- ・ 発信ツールとしての広報誌「けいはんな View」（年4回刊行）、総合パンフレットおよびSNSの活用による情報発信
- ・ 記者会見やプレスリリースを通じた、メディアに対する積極的な情報発信（プレスリリースの記事化85%（33件））

(2) 都市視察を通じた情報発信

【都市建設・産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

本都市のPRや認知度向上を図るため、立地施設等の協力のもと、国内外の視察希望者や関係団体等に対し、都市の概要や研究開発の紹介等を行う取組

◆ 今年度の取組

- イギリス・テムズバレー、中国・昌平区企業団、ブラジル工業連盟訪問団をはじめ、国、自治体、大学、企業等から延べ40団体459人の視察を受け入れ、ATR、NICTなど立地機関の協力を得て、本都市の運営をはじめ産学連携の取組等を紹介

(3) 関係機関との連携強化による情報発信

【都市建設・産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

本都市の情報発信力を強化するため、様々なプラットフォームを通じた立地施設間での情報・意識の共有化を図るとともに、関係自治体との連携による都市全体の広報を実施する取組

◆ 今年度の取組

- 主要な立地施設で構成する企画会議や立地施設とマスコミの関係強化を図るための「記者懇談会」を5回開催するとともに、立地施設の広報活動を支援するため「広報スキルアップ研修会」を開催
- 広報誌「けいはんなView」への8市町（京田辺市、木津川市、精華町、枚方市、四條畷市、交野市、奈良市、生駒市）とのコラボレーション誌面の掲載（令和7年度は生駒市、枚方市、京田辺市、交野市）

4 交流・立地促進事業

都市の賑わい創出による地域社会の発展と新たな共同研究やビジネスの創出を目指し、地域住民が本都市の魅力に触れる機会を提供する取組や研究者・企業・自治体等の相互交流を促進する取組のほか、企業・研究機関等の立地促進に向けた取組を実施した。

(1) 地域との交流を通じた都市の賑わい創出

【産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

本都市の賑わい創出とブランド力向上を図るため、研究成果の発表・展示会、市民向け公開講座、子ども向け科学イベント、音楽イベントなどの開催により、地域住民が本都市の有する最先端の科学技術、文化等に触れる機会を提供し、地域との交流を促進する取組

◆ 今年度の取組

- 「けいはんな万博2025」と連動した以下の取組を実施
 - 本都市の各種研究機関や大学に加え企業、団体、行政等が協力し、研究成果の発信、相互連携促進、地域との密着を目指し、情報通信に関する研究の成果発表や展示を中心とした共同イベント「けいはんなR&Dフェア」（10/4）の開催
 - 本都市内7大学と国会図書館との連携により、先端的な研究内容をわかりやすく市民に紹介することを目指した「市民公開講座」の開催（9/5,12,26）
 - 小中高生と研究者との交流イベントなど本都市ならではの事業を関係機関と協働で展開する「けいはんな科学体験フェスティバル」（3/7）の開催

- ④ 本都市における文化的な賑わいを創出すること等を目的とした、若手音楽家による「けいはんなプチコンサート」や出張コンサート等の開催（計 31 回。1000 回記念事業含む）

(2) 異分野・異業種交流の促進

【産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

新たな共同研究プロジェクト・新ビジネスを創出するため、本都市の大学・研究機関の研究者や企業、住民、自治体等が、最先端の研究内容・成果などについて、情報交換・共有するとともに、人的ネットワークを構築し、異分野・異業種の交流・連携を促進する取組

◆ 今年度の取組

- ・ 研究者等が最先端の研究内容や成果をわかりやすく解説し、相互交流を図る「けいはんなサイエンスカフェ」（5/16,7/11,2/20）の開催
- ・ 若手研究者の情報共有や外部講師等を交えたワークショップ等を行う「けいはんな若手研究者交流会」（6/14,9/19,2/28）の開催
- ・ 立地企業や研究機関等の研究者・従業員等を対象に、職種・業界の垣根を越えた幅広いテーマでの交流を図る「けいはんなイノベーション交流会」（6/6,12/12）の開催

(3) 企業等の立地促進

【都市建設・産業振興】

◆ 取組の概要

企業・研究機関等の立地促進に向け、金融機関・行政との連携を図る取組

◆ 今年度の取組

- ・ 次年度の税制改正を鑑み、税制検討に係る関係自治体との協議、立地状況情報共有及び引合い状況等立地動向に係る関係事業者へのヒアリング（1 回）を実施

(4) 様々な協議会活動等への支援

【産業振興】

◆ 取組の概要

地域社会や企業の発展のため、立地施設、住民等の相互交流の促進や ICT 分野の新産業の創出を図る各種協議会等への参画、支援を行う取組

◆ 今年度の取組

- ・ 「ならやま研究パーク協議会」（5/21, 11/12）に参画
- ・ 「高山地区立地施設等連絡協議会」（5/29）に参画

5 事業化推進事業

本都市の有する先端的技術や研究開発の成果、さらには、競争的資金や特区制度等も活用し、持続的なイノベーションの創出による新産業の創出・集積を目指す取組を実施した。

(1) 研究開発型オープンイノベーション拠点の形成

【重点取組】

【産業振興】

◆ 取組の概要

関西発のイノベーション創出を目指し構築した「けいはんなイノベーションハブ」を基盤とし、フォーラムやセミナーの開催を通じた都市内外の幅広い企業・スタートアップの連携を強化する取組

◆ 今年度の取組

- ・ 「研究開発型オープンイノベーション拠点」の中核を成す「けいはんなイノベーションハブ」の機能強化
 - ① 本都市の各支援機関の機能集約・窓口を一本化し「けいはんなイノベーションハブ運営会議」を運用開始に向けて調整
 - ② 昨年度運用開始の「スタートアップの成長支援」機能を軸に、「けいはんな R&D コンソーシアム」を「けいはんなイノベーションハブ」の運営母体として継続・発展させることを了承(12/15 総会)
 - ③ 「K-PeP Next(仮称)」の設立に向けて参画企業や近畿経済産業局等と個別調整を開始(11月～)
 - ④ 「けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム」主催セミナー：1回(12/15「けいはんな学研都市先端シーズフォーラム」との合同開催)

(2) スタートアップ支援を通じたイノベーションの創出

【重点取組】

【産業振興】

◆ 取組の概要

本都市発のイノベーション創出を目指し、国内外スタートアップに対し、コーディネーターのアシストチームによる育成プログラムやマッチング機会の提供等により事業成長を支援するとともに、スタートアップの有する先端シーズを地域社会・企業の課題解決につなげる取組

◆ 今年度の取組

- ・ K-SAT コーディネーターによるハンズオン支援：30件(社)
- ・ 国内外スタートアップの総合的な支援プログラム「KGAP+13,14」の開催を支援(支援回数8回(KGAP+Unveiling・DemoDay、大阪万博、けいはんな万博、KRPとのジョイントピッチ会、京都スマートシティエキスポ)、マッチング率60%、参加者満足度：86%)

(3) 多様な企業等と住民の連携によるイノベーションの創出

【産業振興】

◆ 取組の概要

市場ニーズからのバックキャストによるイノベーション創出を目指し、住民サポーター組織や企業乗合型・住民参加型プラットフォーム等を活用し、コンセプトづくりから事業化までの一元的な支援を行う取組

◆ 今年度の取組

- ・「RDMM 支援センター」が運営する以下の取組を実施
 - ①住民サポーター組織「Club けいはんな」を活用したアンケート調査や実証実験等：4件
 - ②企業乗合型の公道走行実証実験プラットフォーム「K-PeP」を活用した実証実験等：4件
 - ③ロボットの遠隔操作・自動運転等の通信環境・安全性を向上させる「けいはんな次世代技術基盤」設備の活用：2件
 - ④「K-PeP」を中心とした関連企業、アカデミア、外部機関、調査機関、関係省庁、京都府によるコンソーシアムの立ち上げ準備
- ・「けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム」農食 WG の学研フードテック共創 PF との連携完了

(4) 産学公の共創によるイノベーションの創出

【重点取組】

【産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

産学公連携によるオープンイノベーション拠点の形成を目指し、先端シーズ等の積極的な発信を通じ本都市と関西の大学・研究機関との共創関係を築くとともに、新たな技術や新産業の創出につなげる取組

◆ 今年度の取組

- ・「けいはんな学研都市『大学・研究機関』共創会議」の開催（7/11,12/12）
→7/11 共創会議にて、「ポスト万博シティ推進に向けた提言」意見交換し、7/25 にとりまとめ公表
- ・独自シーズを有する研究者の情報発信等による「けいはんな Sciencepedia」トップページ改変による研究者紹介の充実

(5) 国内外の産学公連携によるフードイノベーションの推進

【重点取組】

【産業振興・学術研究】

◆ 取組の概要

食に関する国内外の様々な課題解決に向けたフードイノベーションを推進するため、プラットフォーム活動を通じ産学公の国際ネットワーク形成を図り、共同研究や共同企画等の事業を展開するとともに、「けいはんなフードテックヒル」形成に向けた機運の醸成を図る取組

◆ 今年度の取組

- ・「学研フードテック共創プラットフォーム」の「発酵」「お茶」「和食」の各テーマ別グループの共同研究・企画の推進や小グループ活動の促進
「発酵」1回（12/11）、「お茶」1回（11/4）、「和食」1回（1/30）、「お茶」成果発表会（3/3）
- ・けいはんな万博 2025 等への参加支援
ウェルビーイングフェスティバル（6/13～14）参画（展示、講演）
フードテック EXPO（10/2～3）に参画（展示、プレゼン等）
- ・京都府や農林水産省等との連携による交流会、セミナー等の開催や情報発信
農林水産省「フードテック官民協議会」との連携企画として、地域ミーティング企画（年2回）をけいはんな万博（6月）とフードテック EXPO（11月）で開催

(6) 次世代スマートシティの実現に向けた技術実証等への支援

【産業振興】

◆ 取組の概要

安心・安全で持続可能なイノベーション都市「次世代スマートシティ」実現のため、本都市ならではのリソースを活用することにより、ICT等のスマート技術やビッグデータを活用した技術実証等を支援し、その成果の実装を推進する取組

◆ 今年度の取組

- ・近畿経済産業局と「K-PeP Next(仮称)」の設立に向けた協議開始(11月)
- ・京都府が進める「自動運転商社」との連携の可能性について検討
- ・「K-PeP」参画企業に対しコンソーシアムへの参画の意向を確認(11月)

6 地域産業振興事業

(1) 立地企業へのビジネス支援

【産業振興】

◆ 取組の概要

地域産業の振興を図るため、関係機関等との連携により本都市の企業・大学・研究機関等の先端シーズ・製品のPRや商談の機会を提供し、企業の事業成長を支援する取組

◆ 今年度の取組

- ・先端シーズ等のPRや商談の機会を提供する「けいはんなビジネスメッセ」については、JKAからの補助金不交付のため開催を見送り、5市町の立地企業等を対象に全国のメディアに向けPRを支援する「けいはんな広報支援プロジェクト」や、デザイン経営について学び変革を目指す「けいはんなミートアップ&ハック(2/17)」を実施
- ・関係市町・商工会等と連携した、主要都市で開催される大規模な展示・商談会への出展支援
＜実績＞「モノづくりフェア2025」(10/15~10/17、マリンメッセ福岡)への出展支援
共同出展企業数：6社、来場者数：23,989名、有効商談件数：24件

7 新産業創出会員事業

本都市の高度な先端技術や発展が期待される技術等を新産業創出会員等へ紹介し、相互の連携を促進、広域的な会員サービス事業を実施した。

(1) 立地企業等の先端シーズの橋渡し

【産業振興】

◆ 取組の概要

新事業の創出や中小企業・スタートアップ等の事業成長を目指し、本都市内の大学・企業・研究機関の研究成果等を新産業創出会員や関連団体等へ紹介するとともに、広域的な大学・研究機関・支援機関との連携強化を図る取組

◆ 今年度の取組

- ・本都市や関西を拠点とする中小企業・スタートアップ・大学等による研究開発の成果等、会員の事業成長に資する情報を提供する「けいはんな学研都市先端シーズフォーラム」を開催(12/15,3/6)
- ・本都市の動向や最新の取組を四半期ごとに「けいはんな View」にて提供(6月、9月、12月、3月)

(運営体制の充実を図るための取組)

- ・コンプライアンス強化の対応として、役職員等による違法行為やハラスメント等の相談
・通報窓口を設置し、調査・処分等の手続を定めた「コンプライアンス推進規程」を整備
- ・「コンプライアンス教育要領」を策定し、人権・コンプライアンス等に関する職員研修を定期的に実施
- ・経理、労務管理の適正化を図るため、外部専門家として税理士・社会保険労務士と顧問契約を締結
- ・当機構の活動内容等を取りまとめた冊子「けいはんな View」を四半期ごとに作成し、役員等へ配布することにより定期的な情報共有を実施

以 上

(令和7年度事業報告附属明細書)

令和7年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないことから作成しない。

令和8年5月

公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構